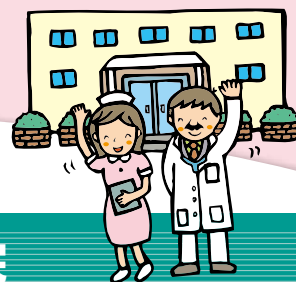


## PlusUltra 創造する未来へ

平成26年5月9日新病院開院



### 新病院情報

#### 外来診療部門 編

患者さんにやさしい医療を提供する病院へ。

#### 患者さんを感染症から守り、安全・快適な動線に

今回は他病院にない工夫について、ご説明します。

立体駐車場より新病院1・2・3階への平行移動ができるようになっていきます。開院当初1日2200~2300名(将来は3000名を想定)の患者さんが受診されるので、ご高齢の方・お子様の危険防止を念頭に、混み合う場所がないようにしました。また先天性風疹症候群などの母体感染症を考慮し、産婦人科と小児科などは



駐車場から外来診察室まで、動線が交わることがないように考えてきました。呼吸器感染症については、2階診察室の一番手前に、専用待合室や専用採痰ブースを設けることにより、外来患者さんへの感染拡大を防止するように設計してあります。さらに小児科外来においては、感染症(疑い)患者さんの前室・専用待合室・診察室を、一般患者さん用とは別に設けており、感染拡大防止対策を講じています。小児科外来と形成外科外来を鉤(かぎ)型に配置し、中央部にお子様が遊べるプレイルームを設けました。産婦人科はプライバシーを考慮し、立体駐車場3階から新病院3階へ平行移動をしてもらうと、内視鏡センターの扉の前を通りますが、他科の受診患者さんとは接することなく、診察を受けることができるように配置してあります。

さらに2階通路には健康情報室を設け、患者さんへの情報提供を心がけました。

#### 環境を活かした、利用しやすいくつろげるアメニティに

またコーヒーショップ、コンビニ、ATM、ゆうちょ銀行、理美容、外来用

レストランを、駐車場棟と新病院の接点にある「アメニティプラザ」に集合させており、わかりやすく利用しやすいホスピタルモールとしました。

病棟においては、両端はガラスにしました。廊下から長久手の豊かな緑を望むことができ、閉塞感を感じることがないように工夫してあります。また食事談話コーナーとは別に、両病棟の両端にデイコーナーを設けてありますので、病室以外でも患者さんにくつろいでいただけます。

最先端の機能と安全性を有する特定機能病院でありながら、長久手の緑豊かな環境を活かして、患者さんにやさしい医療を提供できるような病院を作り上げることができました。

ドクターヘリを活用しながら、中部地区の基幹災害医療センターとしても活躍していきます。



## Pickup 1 背骨の病気を一緒に治しましょう。

脊椎脊髄  
センター

### 総合的な背骨治療で お悩みに応えます

脊椎脊髄センターは、平成24年10月、東海地区の大学病院として初めて開設されました。同センターでは、整形外科と脳神経外科の背骨チームが協力し診療にあた

ります。整形外科の背骨のバランスを重視した診療と、脳神経外科の神経を中心とした診療を融合することにより、総合的な背骨治療をめざしています。痛みセンター、運動療育センター、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科の参加・協力により日本初の総合脊椎

脊髄チーム医療に取り組みたいと考えています。頸部痛、腰痛、腕や足の痛み・しびれでお悩みの方は、脊椎脊髄センターにご相談ください。整形外科と脳神経外科の脊椎脊髄専門医と一緒に、さまざまな角度から、お悩みの病気に対してベストな治療に取り組みましょう。



## Pickup 2 「あれっ? 感染症かな?」と感じたら…。

感染症科

### 「感染症科」の受診が 可能です

平成25年1月に新設された感染症科では、感染症専門医・指導医、抗菌薬化学療法認定医・指導医、日本医真菌学会認定専門医、日本性感染症学会認定医等の感

染症や感染制御に関する専門的な資格を有するスタッフが、重症・難治性感染症、薬剤耐性菌感染症、移植関連感染症、免疫不全関連感染症、外科系領域感染症など種々の感染症に対する横断的診療を行っています。当科は、微生物検査室が併設されている全国でも数少

ない診療科であり、これは患者さんの病態を先進的な技術を用いて診断する上で役立っています。

感染症は、さまざまな病原微生物による疾患であり、さまざまな臓器に起こる疾患であるため、総合的かつ横断的な診断・治療を心がけています。不明熱、下痢、発疹、関節痛、リンパ節腫脹などを主症状とする患者さん、HIV感染症患者さん、渡航者感染症患者さんなどを必要に応じて他の診療科との連絡を密にして診療します。入院が必要な場合には総合診療科と連携して診療を行います。また、海外渡航時に予防が必要な場合には、ワクチン接種も行っています。



# 生活習慣病と心筋梗塞。

循環器内科部長 天野哲也



## 心筋梗塞の現状

現在、我が国では約90万人以上の方が心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患に罹患し、日本人の死因の第2位を占めるのみならず、医療費の約30%が心血管疾患の治療に用いられています。食生活の欧米化および運動不足などの不摂生な生活習慣により、心筋梗塞罹患率の増加とそれに伴う生命予後の悪化、QOL (Quality Of Life:生活の質) 低下、さらには医療費の爆発的な増加をもたらしています。

## 心筋梗塞のメカニズム

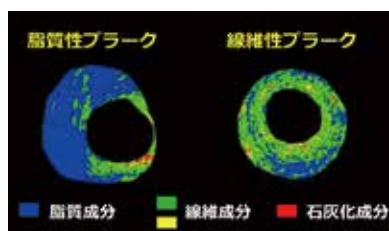
我々医師はこうした状況を打開するために、心筋梗塞発症と生活習慣の関連を検討しています。心筋梗塞は心臓に酸素や栄養を送り届けている冠動脈といわれる血管が、動脈硬化によって閉塞することにより発症します。この動脈硬化の主体をなすのが冠動脈プラーク(\*1)です。我々はこの冠動脈プラークを血管内超音波により観察し、心筋梗塞発症と関連する冠動脈プラーク(脂質性プラーク)の同定(\*2)に成功しました(図1)。さらに外来でもできる検査である冠動脈CTを

独自に応用し、脂質性プラークの同定にも成功しています(図2)。

心筋梗塞を予測することは極めて困難ですが、このような脂質性プラークを見つけることにより心筋梗塞を未然に防ぐ努力をしています。

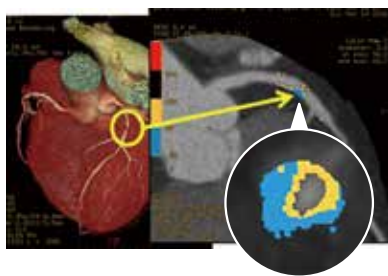
\*1 血管の内側にこびりついたコレステロールや脂肪のこと。

\*2 対象としている物質の種類を決定すること。



【図1】

脂質性プラークと線維性プラーク



【図2】

冠動脈CTによる脂質性プラークの同定

## 心筋梗塞の原因

これまでの検討から、以下の生活習慣(病)が脂質性プラークと関係していることを確認しています。1) 魚をあまり食べない、2) 喫煙、3) 内臓肥満、4) インスリン抵抗性、5) メタボリック症候群などです。特

に最近、心筋梗塞の若年化(30代、40代の発症は珍しくありません)を実感しており、こうした若年発症の特徴としてメタボリック症候群、喫煙が重要な要因になっています。

## 心筋梗塞の予防

心筋梗塞は通常前触れなく突然発症し、心臓突然死の原因としても1位を占めています。このように患者さんの命と直結する心筋梗塞で倒れる前にすべきは、生活習慣の改善と適切な危険因子コントロールです。実際、魚油投与(魚食)、禁煙、糖尿病コントロールなどにより、心筋梗塞と関連する脂質性プラークが心筋梗塞になりにくい線維性プラークに変換することが確認されています。

21世紀はCure(治療)からCare(予防)といわれます。病気を未然に防ぐことが何よりも重要であり、心筋梗塞に関しては生活習慣病であるがゆえに、その発症予防のためには皆さんが主役とならねばなりません。

## 市民公開講座の告知

日 時 平成26年2月1日 土  
13:30~  
会 場 名古屋市中区役所ホール  
内 容 “心筋梗塞で倒れる前に聞いておくといい話”  
問合せ先 名古屋生涯学習推進センター  
TEL(052)321-1571

### 診療実績が評価され、 平成25年4月、認定

生殖・周産期母子医療センターは平成18年8月、4A病棟内に開設されました。生殖医療部門（産科）、新生児集中治療部門（新生児科）から構成されています。これまでの診療実績が評価され、平成25年4月、地域周産期母子医療センターとして愛知県から認定されました。



地域周産期母子医療センターとは、周産期医療に係る比較的高度な医療を提供することができる医療施設を都道府県が認定する制度です。

### 充実した周産期医療を 提供しています

当センターでは産科、新生児科を中心に、小児外科、眼科など関連各科、また薬剤師、理学療法士、ソーシャルワーカー、臨床工学技士などと緊密な連携をとり、周産期医療の充実を図ってきました。

現在、新生児集中治療部門では、NICU（新生児集中治療室）6床、GCU（後方病床）12床、計18床で運営し、年間約200名の入院

患者さんがいます。地域の産婦人科開業の先生方との緊密な連携のもと、約40%は院外出生児としてお預かりしています。いずれの赤ちゃんにおいてもなるべく早く退院していただき、家族の皆さんとの生活ができるようにスタッフ一同、お世話にあたっています。

### さらなる高度な周産期 医療の提供をめざして

新病院ではNICU9床、GCU18床を開設します。今後は、さらに高度な周産期医療を提供する施設として、総合周産期母子医療センターの認可が得られるように計画しています。

### 採血・採尿センターが 新設されます

乳幼児などの一部の患者さんを除く外来患者さんの採血・採尿は、新病院2階に開設される「採血・採尿センター」で行われます。

### 簡単・便利な受付と 効率的で安全な採血室

病院受付でお渡しするNAVIT（スマートフォンサイズの案内装置）のバーコードを採血・採尿センターの自動受付機で読み取ります。採血があれば「採血整理券」、尿検査があれば「バーコードが貼付された尿カップ」が発行されます。

採血の準備が整うと、ご自身の整理券番号が大型ディスプレイに表示されます。それまでの間は待合室でお待ちください。

採血エリアは10カ所あります。さらにベッドのある個室採血室が2カ所あり、これらを効率的に運用して、採血の待ち時間を可能な限り短縮します。また、必要な採血管を機器が



採血・採尿センター イメージ図

自動で準備しますので、採血の準備時間が短縮され、かつ採血管の間違いなどのミスが防止されます。採血の難しい患者さんには、血管の位置を検知する装置を使用し、何度も針を刺すことのないよう努めます。

### すべての人の使いやすさに 配慮した採尿室

採尿室には尿提出用の窓口が設置され、尿を採った後、移動することなく尿を提出することができます。また、車椅子のまま入室できる個室採尿室を男女1カ所ずつ設置し、車椅子の患者さんや小さなお子様をお連れの患者さんにも、安心してご利用いただくことができます。

### 専任のボランティア コーディネーターが着任しました

当院では、多くのボランティアさんの活動により、温かさとお癒しをお届けしています。新病院の開院を迎え、平成25年9月より専任のボランティアコーディネーターが着任



ボランティアコーディネーター 中島里美

し準備をしています。また、新病院ではボランティアセンターもオープンします。ボランティアの皆さんと医療スタッフが手を取り合い、患者さんをサポートできるよう、温かいセンターを作っていきたいと思えます。

### ボランティア コーディネーターへインタビュー

**Q 当院でのボランティアさん達が、ボランティアを始めてくださったきっかけは何ですか？**

ボランティアさんが患者さんとして当院での外来受診や入院された時などに、医師や看護師をはじめとする医療スタッフにとっても良くしてもらったため、お礼に活動し

たいという方が多くいらっしゃいます。ボランティアさんがいつも温かく患者さんと接してらっしゃるのは、「ありがとう」という感謝の思いから始まったからかもしれません。

**Q 病院ボランティアの特徴は？**

病院ボランティアは、数あるボランティアの中でも特に人と人との心の寄り添う活動です。

ボランティアさんには、患者さんに日常生活という爽やかな風を運んでくださったり、安らぎのある心地よい空間を作り出してください。

ボランティアの方々には、活動を通して充実感・喜びを感じていただけたらと思います。

## 一緒にボランティア活動してみませんか？

病院ボランティアに興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

### 活動内容

- 院内案内
- がん支援関係
- 患者さんのお話相手・見守り
- 手仕事関係
- 患者さん用図書室関係
- 展示・催事等

### 活動申込み・お問い合わせ

病院管理課  
ボランティアコーディネーター 中島里美  
TEL 0561-62-3311 (内線79050)  
FAX 0561-63-3208  
e-mail volunt@aichi-med-u.ac.jp



Work Hard and Do My Best

## 患者さんや他の医療スタッフから 信頼される臨床検査技師になりたい。

仲上祐也

中央臨床検査部 平成22年度入職



### 臨床検査技師として

私は、中央臨床検査部で臨床検査技師として働いています。臨床検査という言葉は、患者さんにとって聞き慣れないものかもしれませんが、実は来院される患者さんにとってとても身近なものです。皆さんが病院で受けるさまざまな検査のうち、血液や尿などを調べる検査や、心電図や超音波などで体を直接調べる検査を臨床検査といいます。臨床検査は体の状態を正確に把握するために行われるもので、その結果は診断や治療に活かされています。私たち臨床検査技師は、臨床検査のプロフェッショナルとして、正確な検査結果を報告できるよう日々努めています。

### 異常な細胞を見逃さない

現在の私の主な仕事は、血液や



尿に含まれている細胞を調べることです。顕微鏡を使うことで、細胞を1000倍ものサイズに拡大して観察します。血液や尿に異常な細胞が現れた場合は、白血病や膀胱癌などが疑われることがあります。異常な細胞を見つけた場合には、患者さんが専門医を受診できるように、直ちに担当医に連絡しています。異常な細胞を見逃さないことが、病気の早期発見や適切な治療の第一歩であるとの意識を持って、仕事に取り組んでいます。

### 検査室の外で

臨床検査に関する仕事の大部分は検査室の中で行われていますが、私たちが検査室から一歩外に出て行う仕事もあります。その一例が、医師や看護師をはじめとしたさまざまな医療スタッフが協力して患者さんのケアを行う、チーム医療への参加です。私は患者さんを栄養面からケアするNST (Nutrition Support Team) というチームに参加しています。NSTでの私の仕事は、検査結果から患者さんの栄養状態を判断することです。必要な栄養を十分に摂ることが治療の経過に影響するともいわれており、他の医療スタッフと連携して患者さんの栄

養状態が適切に保たれるようサポートしています。また内科外来での採血も担当しており、さまざまな場面で患者さんと直接お会いする機会もあります。検査に関する疑問などがありましたら、お気軽に声をかけてください。

### 今後の目標

臨床検査技師の仕事はさまざまな専門分野に分かれて行われていて、まだ私自身が実務経験したことのない分野がたくさんあります。これから多くの経験を積んでいく中で、自分の専門分野を見つけていきたいと考えています。また、検査室の外での仕事にも積極的に参加し、患者さんや他の医療スタッフに信頼される臨床検査技師になれるよう努力していきたいと思っています。



## 睡眠時無呼吸症候群の簡易検査がすぐに受けられます。

### 愛知医科大学メディカルクリニック

愛知医科大学メディカルクリニックでは、平成25年7月より、睡眠時無呼吸症候群(SAS)の簡易スクリーニング検査を本格的に導入しています。

当クリニックでの簡易検査は、大学病院と同様に、機械による解析に加えて経験ある検査スタッフが直接データを解析するため、単なる機械任せの場合より診断の精度が高いのが特徴です。これにより、以後の不必要な検査を避けることもでき、患者さんにとってはより安心であると同時に、十分な経済的メリットもあります。

SASは、高血圧や糖尿病といった生活習慣病とも密接な関係があると考えられています。普段から眠気がある方は勿論ですが、これらの生活習慣病がなかなかうまくコン

トロールできない患者さんには、SASの簡易スクリーニングは是非一度受けていただきたい検査でもあります。

当クリニックでは大学病院よりも予約枠に十分な余裕があるので、すぐに検査を受けていただき、迅速に詳細な結果をお知らせすることが可能です。

検査をご希望の方はお気軽にお問い合わせください。



〒461-0005

名古屋市東区東桜二丁目12番1号

TEL 052-931-2261

FAX 052-931-4841



愛知医大 クリニック 検索

## 新しい「メディカルパス」を作成しました。

### 医学情報センター(図書館)

近隣の公共図書館と展開している健康支援事業「めりーらいん」の一環で、調べ方ガイド「メディカルパス」を作成しています。これは、連携図書館の蔵書、Webサイト、コラムなどを、病名や症状ごとに一つの小冊子にまとめ、地域の皆さまのお役に立てるように工夫したものです。今回、『めまい・耳鳴り』と



『腰痛(改訂版)』を作成し、連携図書館での無料配布や「めりーらいん」のホームページで公開しておりますので、ご活用ください。

メディカルパス・アクセス先

<http://www.aichi-med-u.ac.jp/micl/meliline/mp.html>

開館時間

平日 9:00~22:00(入館は21:30まで)

土曜 9:00~19:00(入館は18:30まで)

※入院患者さんのご利用は17:00まで

TEL 0561-61-5402

開館カレンダーは

サイトでご確認ください。



愛知医大 図書館 検索

## ヘルシークッキングを楽しく学んでみませんか。

### 運動療育センター

健康を維持するには、運動だけでなくヘルシーな食事も大切です。そこで運動療育センターでは、会員を対象に栄養バランスのとれたヘルシークッキング教室を、毎月2回(男女別)開催しています。参加費は1回1000円とお得感たっぷり。指導はベテラン管理栄養士2名が丁寧に行います。ぜひ運動療育センターの会員になってヘルシークッキングを楽しく学んでみませんか。

#### 10月の女性のヘルシークッキング

|             |         |
|-------------|---------|
| 魚とポテトのガレット  | 157kcal |
| 焼野菜のサラダ     | 10kcal  |
| トマトのたまご炒め   | 83kcal  |
| ミルク団子生姜シロップ | 108kcal |
| エネルギー(ご飯含む) | 525kcal |



開館時間

平日 9:00~20:00

土・日曜 9:00~17:00

休館日 毎週木曜日・祝日・年末年始

TEL 0561-61-1809



愛知医大 運動 検索

# 新病院建設へのご協力をお願いいたします。

本学開学以来最大の事業である新病院は、平成25年12月3日に竣工式を終え、平成26年5月9日の開院に向けて、全職員一丸となって万全な準備に取り組んでいるところです。



学校法人 愛知医科大学  
理事長 三宅養三

厳しい経済情勢ではありますが、本事業の趣旨にご理解いただき、募金に対する格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 募金要項

- 1 募金目的 …………… 愛知医科大学新病院建設資金
- 2 募金目標額 …………… 20億円  
(新病院建設を含むキャンパス整備の総事業費は、約390億円)
- 3 募金1口の金額 …… 個人:10,000円  
法人・団体:50,000円  
※できるだけ多数口のご協力をお願い申し上げます。  
※多数口の場合は、分割による払込も可能です。
- 4 免税の取扱い …… 本学は、所得税の税額控除が適用される対象法人としての証明を受けております。
- 5 募金の期間 …………… 平成23年3月～平成28年3月  
(5年間)

お問合せ先

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1  
学校法人愛知医科大学 法人本部 資金・出納室  
TEL 0561-63-1062 FAX 0561-62-4866  
E-mail sikin@aichi-med-u.ac.jp

## 愛知医科大学病院の 理念と基本方針

### 理念

診療・教育・研究のすべての領域において、医療を基盤とした社会貢献を目指す

- 社会の信頼に応えうる医療機関
- 人間性豊かな医療人を育成できる教育機関
- 新しい医療の開発と社会還元が可能な研究機関

### 基本方針

- 人間性を尊重した患者中心の医療の提供
- 安全で良質な医療の実践
- 思いやりと温もりのある医療人の育成
- 先進的医療技術の開発・導入・実践の推進
- 災害・救急医療への積極的な取り組み
- 地域医療連携の推進及び地域医療への貢献

## 病院のシンボルマークが新しく制定されました。



愛知の「A」を基本形に、医科の「I」と「K」、さらには「人」という文字をイメージさせる全体構成となっており、水平線に見立てたラインは、人と地域に貢献する医療のあり方を表現しています。

カラーは、自然豊かな長久手の環境をイメージしたグリーングラデーションで表されています。

## 編集後記

いよいよ新病院の開院も間近に迫ってまいりました。職員一同協力して準備をすすめております。

前号より大幅にリニューアルしました病院広報誌「たちばな」は、おかげさまで皆さまにご好評をいただいております。本号も楽しく読んでいただけるように工夫を致しました。

次号もお楽しみに。

病院広報委員会 春日井邦夫

編集・発行 愛知医科大学病院 病院広報委員会  
TEL 0561-62-3311  
FAX 0561-63-3208  
編集協力 プロジェクトリンク事務局



愛知医大病院 検索